

熊本県総合エネルギー計画の進捗状況について

平成29年11月30日
エネルギー政策課

1 目標の達成状況について

(1) 計画目標

- 熊本県では、未来型エネルギーのトップランナーとして新エネ・省エネ先進県を目指して平成24年10月に「熊本県総合エネルギー計画」を策定。
- 本計画では、平成32年度末における①新エネルギーの累計導入量と②省エネルギーによるエネルギー削減相当量の合計が、本県の平成21年度の家庭部門の電力消費相当量となる原油換算100万kLとなることを目標として掲げている。

(2) 平成28年度末の状況

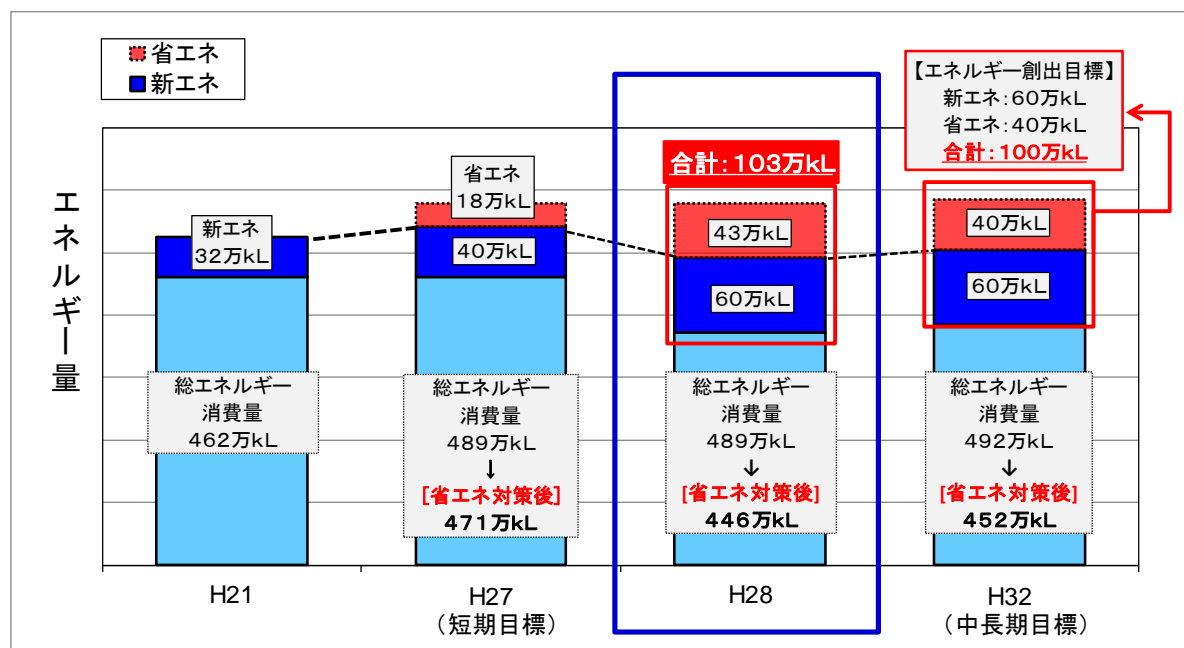
- 新エネルギーの導入については、32万kL（H21）から60万kL（H28）へ増加し、中長期目標の60万kLを達成。
- 省エネルギーについては、総エネルギー消費量が446万kLとなり、省エネ対策前の推計総エネルギー消費量から43万kL削減。
- 合計で103万kL（60万kL+43万kL）の成果を上げ、平成32年度の中長期目標である100万kLを上回った。（省エネルギーに関しては暫定値、平成30年12月頃に確定予定）

(3) 近年の趨勢

- 全体としては、新エネルギーの導入、省エネルギーの推進とも大幅に目標を上回って進んでいる。

【目標と進捗状況のイメージ】

(参考) エネルギー消費量の推計は、世帯数、製造品出荷額、自動車保有台数の伸び率等で推計した



2 現状及び今後の方向性

<p>新エネルギー</p>	<p>新エネルギー全体としては、平成24年7月から開始された「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」を背景に、特にメガソーラーなど事業用太陽光発電がけん引し、中長期目標にあたる60万kLが導入された。</p> <p>一方、中小水力発電や地熱・温泉熱発電については、候補地点の選定・調査や法規制、地元の権利関係の調整等に時間を要するため、引き続き、地元の理解を得ながら、適地調査や調査研究の支援に取り組んでいく。</p>
<p>省エネルギー</p>	<p>省エネルギーは、熊本地震が発生したH28年度は前年度に比べ若干減少した。しかし電力不足問題等を背景に、県民や県内企業の節電意識は高まっており、省エネ対策前の推定総エネルギー消費量から43万kLの削減となり、中長期目標を上回って進んでいる。</p> <p>要因としては、節電取組の継続により電力消費量が抑制されたこと等が考えられる。</p> <p>今後も、地球温暖化対策と併せ、県民総ぐるみでの省エネ推進により、より効果的な省エネ設備の導入促進や節電対策に取り組んでいく。</p>

【新エネルギーと省エネルギーの進捗】

